

令和 1 年度事業評価シート

No.1

PLAN(計画)

自己評価

事務事業
番号

18

事業区分	行政事務	事務事業評価の履歴					有
事務事業名	地域子ども・子育て支援事業						
予算科目	3 款 2 項 4・5 目						
予算事業名	児童福祉施設運営費・子育て支援事業						
総合計画での位置づけ	安心な子育て環境をつくる						
担当課	福祉課	担当課長	稲永 みき				
事業担当者	城戸 智美		一次評価者	阿部 哲也			
事業の性格	自治事務						
法令根拠等	児童福祉法、子ども・子育て支援法、久山町地域子育て支援拠点事業実施要綱、久山町一時預かり実施要綱、久山町ファミリー・サポート・センター事業実施要綱、久山町病児保育実施要綱等						
事業の対象	久山町に住所を有する子育て世帯						
事業の目的	地域子ども・子育て支援事業として位置付けられた13事業(地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業、ショートステイ、病児保育など)により子育て世帯のさまざまなニーズに対して地域での子育て支援を図る。						
実施期間	開始年度	平成 17 年度から					
	終了年度	令和 年度まで					
事業の内容	・地域子育て支援拠点事業 ・一時預かり事業 ・ショートステイ事業 ・病児保育事業 ・ファミリー・サポート・センター事業 ・届出保育施設運営補助事業 ・届出保育施設職員健診補助事業						
目的達成の指標	久山町子育て支援センター「木子里」利用者数(土日含む)						
	区分年度	単位	30 年度	1 年度	2 年度	3年度	
	目標	延人	5,000	5,000	7,000	7,000	
実績	延人	6,468	5,118				
指標設定の考え方	地域子育て支援の拠点として位置付ける子育て支援センター「木子里」の利用者の増を図ることで、子育て支援情報の提供ができるとともに、養育に不安のある方を保健師につなぐことができる。						
事業遂行時懸案事項等	①「木子里」の土日については、町単独事業であり活動内容に自由度があるため、今後は企画として活動できるものを検討し、実現させたい。 ②ファミリー・サポート・センターについては平成28年度からの事業であるため、今後定着できるよう周知方法についても検討していく。						
事業実施時懸案事項対応等	①講習ではなく楽しく参加できる体験型の事業として、地域の力を借りた事業を実施する。 ②ファミサポに関する新たなパンフレットなどを作成し、周知方法を図る。						

PLAN(計画)

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 1,536 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。(千円)

項 目		30 年度予算	1 年度予算	2 年度予算	3 年度予算
事務量	① 人工数	0.37	0.59	0.59	0.59
	② 人件費単価	7,350	7,555	7,137	7,137
	③ 補助事業人件費				
	人件費(①×②-③)	2,719	4,457	4,210	4,210
事業費	直接事業費	15,177	15,753	14,707	14,707
	人件費	2,719	4,457	4,210	4,210
	合 計	17,896	20,210	18,917	18,917
財源内訳	国庫支出金	3,441	3,189	3,770	3,581
	県支出金	3,173	3,256	3,623	3,623
	地方債				
	その他	25	25	25	25
	一般財源	11,257	13,740	11,499	11,688
	合 計	17,896	20,210	18,917	18,917

事業費計画

ko (千円)

区分/年度	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
目 標	15,177	15,753	14,707	14,707	
実 績	12,481	12,403			

事業活動の実績(活動指標)

※ 上段には目標値を、下段には実績値をそれぞれ記入してください。

項目	単位	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度
参加世帯数 (にこにこひろば)	延世帯	2,000	2,000	2,000	2,000
		1,634	1,368		
参加世帯数 (赤ちゃんのへや)	延世帯	200	200	300	300
		221	144		
参加世帯数 (のびっこひろば)	延世帯	180	180	250	250
		191	121		
病児保育利用者数	延人	10	10	10	10
		3	0		
ファミサポ会員登録数 (久山町のみ)	人	50	50	80	80
		63	73		

DO(実施)

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 1,184 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。(千円)

項 目		30 年度決算	1 年度予算	1 年度決算	
事務量	① 人工数	0.37	0.59	0.59	
	② 人件費単価	7,187	7,555	7,891	
	③ 補助事業人件費		0		
	人件費(①×②-③)	2,659	4,457	4,655	
事業費	直接事業費	12,481	15,753	12,403	
	人件費	2,659	4,457	4,655	
	合 計	15,140	20,210	17,058	
財源内訳	国庫支出金	3,105	3,189	3,256	
	県支出金	3,124	3,256	3,192	
	地方債		0		
	その他	20	25	13	
	一般財源	8,891	13,740	10,597	
	合 計	15,140	20,210	17,058	

実施備忘録

自己評価	評価者	城戸 智美
------	-----	-------

5段階評価で評点を付けます。
5 大 ←→ 小 1 ↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
<input type="checkbox"/> 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	5	A
<input type="checkbox"/> 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
<input type="checkbox"/> 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	4	
<input type="checkbox"/> 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	4	
2. 町が実施する必要があるか？		
<input checked="" type="checkbox"/> 町が実施主体となることが法令等により定められている ※該当する場合は左の口にチェックしてください。		A
<input type="checkbox"/> 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	2	
<input type="checkbox"/> 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	4	
<input type="checkbox"/> 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	2	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		B
<input type="checkbox"/> 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	
<input type="checkbox"/> 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
<input type="checkbox"/> 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		B
<input type="checkbox"/> 事業費に見合った成果を上げている。	4	
<input type="checkbox"/> 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。	4	
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		B
<input type="checkbox"/> 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)	4	
<input type="checkbox"/> 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
<input type="checkbox"/> ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	4	

今後の方向性	見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> A重点化	<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input checked="" type="checkbox"/> B現状のまま維持	<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> C見直し	<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> D廃止	<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> E事業完了	<input type="checkbox"/> その他

4. 自己評価の理由(必要性、有効性、効率性、公平性・透明性の観点から)

昨年度ほどではないが、核家族の転入が増え、子育て支援センター「木子里」の必要性は増している。子育て支援センター「木子里」の周知に力を入れたため、転入者の利用も増えており、専任の保育士が相談窓口になることで、子育て支援係、母子保健係ともスムーズに連携できている。
ファミサポも実施初年度から会員数は目標をクリアでき、また、活動も徐々に始まっていることから、篠栗町との広域であることの利点を活かした事業展開が可能となった。
幼稚園の預かりが始まったことで保育所での一時預かり事業の利用者減や、今年度利用者のなかったショートステイや病児保育については、必ずしも利用者が多ければよいという事業ではないが、利用者が困ったときに気軽に利用できるよう引き続き事業受託者との連携を強化し、周知方法を検討していく。

5. 成果実績の評価(今後の方向性等について具体的に)と課題認識

今年度は新型コロナウイルス感染症等の関係で3月はほぼ休館だったが、木子里の休館中も専任保育士は次年度に向けて運営内容を精査し、対象年齢にあう活動に工夫を凝らしている。通常時も子育てに不安を持つ保護者からの相談等にも適宜対応できており、今後も継続したい。
子育て支援センター「木子里」の土日については、久山町で助産院を営む梶嶋陽子先生を迎え、長子に特化したコミュニケーションの大切さを周知する講和を実施予定であったが、新型コロナにより中止となった。今後は、土日については利用者が増えていることから、町がイベント等を用意するのではなく、自主的な活動及び人とつながる場所として、安心して利用できる環境づくりに力を入れていきたい。
ファミリー・サポート・センターについては定期利用者がおり、今後さらに定着できるよう周知方法についてもさらなる検討を要する。
また、病児保育やファミサポは令和元年10月から始まった無償化の事業でもあり、粕屋や篠栗との広域事業でもあるため、近隣町との連携についても引き続き密に行う必要がある。

一次評価	評価者	阿部 哲也
------	-----	-------

5段階評価で評点を付けます。
5 大 ↔ 小 1 ↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
<input type="checkbox"/> 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	4	B
<input type="checkbox"/> 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
<input type="checkbox"/> 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	4	
<input type="checkbox"/> 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	4	
2. 町が実施する必要があるか？		
<input checked="" type="checkbox"/> 町が実施主体となることが法令等により定められている ※該当する場合は左の口にチェックしてください。		A
<input type="checkbox"/> 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	3	
<input type="checkbox"/> 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	3	
<input type="checkbox"/> 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	3	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		B
<input type="checkbox"/> 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	4	
<input type="checkbox"/> 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
<input type="checkbox"/> 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		B
<input type="checkbox"/> 事業費に見合った成果を上げている。	4	
<input type="checkbox"/> 外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。	4	
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		B
<input type="checkbox"/> 受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)	4	
<input type="checkbox"/> 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
<input type="checkbox"/> ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	4	

今後の方向性	見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> A重点化	<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input checked="" type="checkbox"/> B現状のまま維持	<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> C見直し	<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> D廃止	<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> E事業完了	<input type="checkbox"/> その他

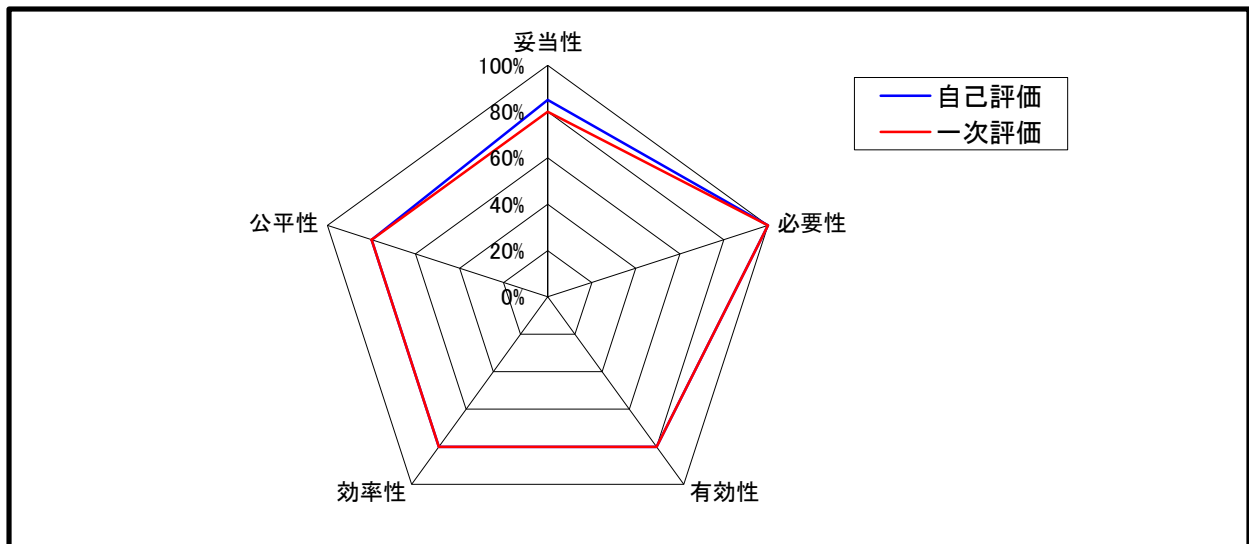
一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

子育て支援センター「木子里」の利用は、新型コロナウイルス感染症による休館の影響により、昨年度より利用者数は減となっているが、休館がなければ同程度の人数利用は見込まれた。これは、周知に力を入れ行った賜物であり、今後も続けていく必要がある。また、木子里の保育士、子育て支援係、母子保健係の連携がスムーズに行われ新規利用者が増えている。

ファミリーサポートセンターについては、篠栗町との広域連携であるが、会員数も順調に増えている。今後も会員数増を目指し活動を行う。

一時預かり事業やショートステイ事業、病児保育事業については、利用者が減ったり利用がなかった事業であるが、住民が利用したいときに利用できない状況にならないように今後も継続して事業受託者と連携強化していく必要がある。

自己評価・一次評価の傾向



二次評価

評価者

稲永 みき

- 一次評価結果により、以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を進める。

- 一次評価結果のとおり事業継続と判断する。

地域子育て拠点事業については、関係機関との連携および周知方法の改善により、利用者も増えている。病児保育やショートステイについても、受け入れ体制を維持すると共に周知方法等を再度検討していく必要がある。

- 一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。

- 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。



一次評価をやり直し、
月 日
までに事務局へ提出すること。

- 住民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを外部評価委員会に諮ることとする。

- 一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。



外部評価委員会で評価する。
月 日
開催予定

- 一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。

評価終了
 外部評価へ

外部評価

今後の方向性
<input type="checkbox"/> A重点化
<input type="checkbox"/> B現状のまま維持
<input type="checkbox"/> C見直し
<input type="checkbox"/> D廃止
<input type="checkbox"/> E事業完了



見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> その他

評価	
----	--

外部評価委員の意見

--

経営者会議

経営者評価	
-------	--

今後の方向性
<input type="checkbox"/> A重点化
<input type="checkbox"/> B現状のまま維持
<input type="checkbox"/> C見直し
<input type="checkbox"/> D廃止
<input type="checkbox"/> E事業完了



見直しの具体的内容
<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫
<input type="checkbox"/> 事業の効率化
<input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化
<input type="checkbox"/> 事業縮小
<input type="checkbox"/> その他

評価	
----	--

経営者会議の評価

--

令和 3 年度予算要求事項(今後の取り組み)

--